

順位	氏名（議席）	発言の要旨
20	石川 浩司（4）	1. 観光施設である富士川楽座の在り方と体験館どんぶらのリニューアルについて 本年、25周年を迎えた富士市の観光施設である富士川楽座は、年間350万人余の方に御利用いただいている本市の観光の拠点施設であると認識しています。 近年では、高速道路利用のお客様だけでなく、清水港に入港した大型客船のお客様が富士宮市の浅間大社に向かう途中に富士川楽座で休憩する等、インバウンド需要の取り込みも成果を挙げています。 一方で、開館から25年以上が経過し、施設の老朽化が著しく、特に体験館どんぶらは、当初は川の科学館として整備し、その後平成20年に体験型の科学館にリニューアルした後は、応急的な修繕しか行っておらず、有料施設にふさわしい水準と言い難い状況です。 リニューアルの概算事業費は4億円で、現状の内部の解体から建築、電気、機械設備や展示演出等を含んだものでありますが、近年の労務、施工費用の高騰を受け、予備として全体金額の20%のコストアップの可能性があることも令和7年5月27日の産業教育委員会協議会で報告されています。 同施設は、道の駅を利用する市外の方はもちろん、夏休み期間中等における市内の子ども会等の利用も多く、天候や気温に左右されない子供の遊び場としても、貴重な存在です。 こうした現状を踏まえ、市では昨年度から体験館どんぶらの全面リニューアルの検討を行っているとは承知していますが、その進捗状況と今後の富士川楽座の在り方について、以下質問します。 (1) 本市の観光施策において、富士川楽座と体験館どんぶらをどのような施設と考えているのか。 (2) 富士川楽座は、市内の他の施設と比べ、知名度や集客力も群を抜いており、行政の果たす役割として優先して投資していくべき施設と考えるのがいかがか。 (3) 現状の体験館どんぶらには、どのような課題があると認識しているのか。また、今回のリニューアルはおおむねどのようなコンセプトで進める計画なのか。 (4) リニューアルに当たって、財源の確保の見通しはいかがか。国の新しい地方経済・生活環境創生交付金が最も適していると思うが、採択の見通しはいかがか。 (5) 体験館どんぶらの改修スケジュールをどのように考えているか。 (6) 本市の観光拠点として富士川楽座をどのように位置づけ、展開していく予定か。 2. 今後の松野・富士川地区の公共交通について 本市でも公共交通をめぐる環境は厳しく、路線の廃止などが現実になってきています。6月定例会でも質問させていただいた松野・富士川地区の運行バスについても、現実問題として大北線を本年9月末に、蒲原病院線を12月末にと、全ての路線が廃止になることが決定しました。 その中で、自主運行として大北線を12月末まではほぼ同様な形で運行することとし、プロポーザルにて富士急静岡バスで運行が決定しました。 現在、地元での説明会並びに要望アンケートを実施し、1月以降の運行を決定するとしていますが、その運行本数並びに運行経路を含め、以下伺いま

順位	氏名（議席）	発 言 の 要 旨
20	石川 浩司（4）	す。 （1）山梨交通の路線バス廃止に伴い、プロポーザルで富士急静岡バスによる運行が決定したが、運行に関して条件などはあったのか。 （2）今回、補助金ではなく自主運行になった最大の要因は何か。 （3）既に説明会が行われているとのことだが、地元の反応はいかがか。 （4）現在、要望アンケートを取っているが、このアンケートはどのように生かすのか。 （5）1月以降のダイヤについて、市はどこが最大のポイントと考えているのか。